

項目別の状況

(3) 業務運営・財務内容等の状況
自己点検・評価及び情報提供
評価の充実に関する目標

中期目標 自己点検・評価を有効かつ効率的に行い、評価結果を公表するとともに大学運営の改善等に結びつけるシステムを確立する。

中期計画	年度計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）	ウエイト
<p>自己点検・評価の改善に関する具体的方策</p> <p>【214】</p> <ul style="list-style-type: none"> の1の(3)の「教育活動の評価及び評価結果を質の改善につなげるための具体的方策」及び同2の(2)の「研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策」及び同2の(2)の「研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策」に掲げるところにより構築する各教育研究組織の体制と連動させつつ、それらの機能が効率的に発揮しうよう支援するとともに、全学的業務に係る自己点検・評価を実施することを任務とする全学システムを確立する。 	<p>自己点検・評価の改善に関する具体的方策</p> <p>【214-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価室において、の1の(3)の「教育活動の評価及び評価結果を質の改善につなげるための具体的方策」及び同2の(2)の「研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策」に掲げるものを中心に、各教育研究組織の評価体制が効率的に機能を発揮しうよう支援する。 <p>-----</p> <p>【214-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期目標の期間における業務の実績を明らかにした報告書及び認証評価を受ける際の自己評価書を適切かつ効率的に作成するために必要な方策について検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> 各教育研究組織の評価体制が効率的に機能を発揮しうよう評価室において以下のとおり支援した。 授業アンケートを実施し、結果を各教員・部局長等へフィードバックするとともに全体的に分析し、公表した。 評価の基礎資料として、「研究者情報」、「研究業績情報」、「教員の教育・管理運営・社会貢献活動一覧」をホームページで公開した。 大学情報データベースを構築して、旧研究活動データベースに集積した「研究者情報」、「研究業績情報」の全データ及び「教員の教育・管理運営・社会貢献活動一覧」の過去3年間の調査データを移行し、平成19年2月から公開した。 点検評価関係資料・統計資料をホームページで公表した。 評価室において、法人化からこれまでの年度評価実績報告書作成方法を検証し、中期目標期間の業務実績評価に係る実績報告書等及び認証評価を受ける際の自己評価書を適切かつ効率的に作成するための方策について検討した。 平成19年1月、本学が幹事となって、道内各国立大学法人の参画を得て、大学評価・学位授与機構から講師を招き、「中期目標期間における教育研究の状況の評価（平成20年度に実施する評価）に関する説明会」を開催し、情報交換を行った。 	
<p>【215】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価に必要な不可欠なデータを全学的に集約、蓄積し、評価に迅速かつ効率的に利用できる基盤を平成18年度中を目途に構築する。 	<p>【215】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価に必要な不可欠なデータを全学的に集約、蓄積し、評価に迅速かつ効率的に利用できるデータシステムを構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> 評価室の下に設置しているデータ集積・分析システムWGと契約業者とで定期的に協議をしながら大学情報データベースの構築を進めた。 教員の活動等を示す1次データについては、旧研究業績データベースに集積した「研究者情報」、「研究業績情報」の全データ及び「教員の教育・管理運営・社会貢献活動一覧」の過去3年間の調査データを移行し、平成19年2月から本学ホームページ上で一般公開し、3月から入力等を含めた運用を開始した。 組織の活動を示す2次データについては、平成19年7月末までに構築し、評価に活用することとしている。 大学情報データベースを適切かつ効率的に運用するため、評価室の下に運用・管理部会を設置することとした。 	

<p>【216】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に対する説明責任を果たすため、授業アンケートの結果などを含む自己点検・評価の結果を、ホームページ等により公表する。 	<p>【216】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に対する説明責任を果たすため、授業アンケートの結果などを含む自己点検・評価の結果を、ホームページ等により公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業アンケートの結果について、全体的な分析結果を公表するとともに、評価平均点が上位となった授業の担当教員を「エクセレント・ティーチャーズ」とし、その授業内容や工夫などもホームページで公表した。 ・ 平成17年度に実施した授業アンケート結果への教員の対応等の調査結果について、「教員からのメッセージ」としてホームページで公表した。 ・ 研究者の研究業績をデータベース化して「研究者情報」及び「研究業績情報」として公表した。また、「教員の教育、管理運営、社会貢献活動一覧」についてもホームページで公開した。 ・ 大学情報データベースを構築して、旧研究活動データベースに集積した「研究者情報」、「研究業績情報」の全データ及び「教員の教育・管理運営・社会貢献活動一覧」の過去3年間の調査データを移行し、平成19年2月から公開した。 ・ 点検評価関係資料・統計資料をホームページで公表した。 ・ 各部局等においても、教育学研究科・教育学部、医学研究科・医学部、獣医学研究科・獣医学部、水産科学院・水産科学研究院・水産学部、薬学研究院・薬学部、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、触媒化学研究センター、情報基盤センター、アイソトープ総合センター、量子集積エレクトロニクス研究センター、脳科学研究教育センター及び保健管理センターにおいて点検・評価の結果や年報を冊子あるいはホームページで公表した。
<p>評価結果を大学運営の改善に活用するための具体的方策</p> <p>【217】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前記の「自己点検・評価の改善に関する具体的方策」に掲げる全学システムの一環として、各種自己点検・評価並びに各事業年度及び中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果を分析し、全学的視点から教育研究活動や業務運営の改善に効果的に反映させるための学内体制を確立する。 	<p>評価結果を大学運営の改善に活用するための具体的方策</p> <p>【217】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成17年度に係る業務の実績に関する評価結果を分析し、その結果に基づき、全学的視点から教育研究活動や業務運営の改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成17年度に係る業務の実績に関する評価結果については、学内関係会議において評価室長から報告し、課題とされた事項について改善への取組を喚起した。また、評価室において同規模大学の評価結果との比較分析を行い、各年度計画を担当する各総長室等に報告した。平成17年度の評価結果で課題があるとされたものについては、平成18年度に取り組む事項として既に年度計画に盛り込んでおり、担当の総長室を中心に対応した。
<p>【218】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果を学内資源の配分を行う際の基礎資料として活用するためのシステムを の1の の「全学的視点からの戦略的な学内資源配分に関する具体的方策」の一環として検討し、平成18年度を目途に実施する。 	<p>【218】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ の1の の「全学的視点からの戦略的な学内資源配分に関する具体的方策」の一環として、傾斜配分を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成17年度までの検討結果に基づき、「博士（後期）課程充足率」、「博士号学位授与率」及び「外部資金受入状況」を評価基準とする傾斜配分を実施し、研究科等における教育研究の活性化や改善のための取組の進捗状況に関する評価を予算配分へ反映させた。
<p>【219】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に関する実績を評価しインセンティブ付与に適切に結びつ 	<p>【219】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に関する実績を評価しインセンティブ付与に適切に結びつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に関する実績を評価しインセンティブ付与に適切に結びつけるシステムを の3の の「人事評価システムの整備・活用に関する具体的方策」の一環として検討し、平成19年度中の実施を目途に、基本方針を取りまとめた。

<p>けるシステムを の3の の「人事評価システムの整備・活用に関する具体的方策」の一環として検討し、平成19年度を目途に実施する。</p>	<p>けるシステムを の3の の「人事評価システムの整備・活用に関する具体的方策」の一環として検討する。</p>		
		<p>ウェイト小計</p>	

(3) 業務運営・財務内容等の状況
自己点検・評価及び情報提供
情報公開の推進に関する目標

中期目標 国民に支えられる大学として社会に対する説明責任を果たすため、教育研究、組織運営など広範囲にわたる各種情報を広く公開・提供する。

中期計画	年度計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）	取 付
<p>【220】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学における教育研究活動面に関する多彩な情報を、広報資料及びホームページを活用して、より分かり易く公開・提供する。 	<p>【220】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学における教育研究活動面に関する多彩な情報を広報資料及びホームページを活用して、より分かり易く公開・提供する。 		<ul style="list-style-type: none"> 平成18年4月からホームページを以下のとおりリニューアルした。トップページ等を視覚的に分かり易いデザインとした。訪問者別インデックスを設けるなどユーザーの利便性に配慮した内容とした。携帯電話にも対応する機能を付加した。 総長を室長とした広報室の下にホームページ部会を設置し、本学のホームページの在り方について、逐次改善を図る体制を整備した。 研究者の研究業績をデータベース化して「研究者情報」及び「研究業績情報」として公表した。また、「教員の教育、管理運営、社会貢献活動一覧」についてもホームページで公開した。 大学情報データベースを構築して、旧研究活動データベースに集積した「研究者情報」、「研究業績情報」の全データ及び「教員の教育・管理運営・社会貢献活動一覧」の過去3年間の調査データを移行し、平成19年2月から公開した。 本学の最新の研究内容を一般にも分かり易く紹介する広報誌「リテラポプリ」を年4回発行し広く学内外に配布するとともに、あわせてホームページでも公開した。 	
<p>【221】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の中期目標、中期計画、年度計画、財務内容等組織運営面に関する情報を、ホームページを用いて積極的に発信する。 	<p>【221】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き本学の中期目標、中期計画、年度計画等組織運営面に関する情報を、ホームページを用いて積極的に発信する。また、リニューアルしたHPに「北大からのお知らせ」のバナーをもうけ見やすさに配慮する。 		<ul style="list-style-type: none"> 本学の基本理念と長期目標、中期目標、中期計画、年度計画等組織運営面に関する情報を速やかに掲載するなどホームページから積極的に発信している。また、リニューアルした際に「新着情報」の欄を設け本学に関する最新の情報を常に配信するよう配慮した。 	
<p>【222】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外からの多様な問い合わせにこたえる方策として、ホームページ上にFAQ（Frequently Asked Question）を掲載するとともに、平成17年度中を目途にFAQに対応する学内体制を整備する。 	<p>【222】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成17年度に設置された広報室において、FAQを作成し、ホームページに掲載する。 		<ul style="list-style-type: none"> 広報室において、部局等が独自に掲載していたFAQの項目・内容を整理再編し、学外者からよく質問のある事項を中心に全学共通のFAQを作成しホームページに掲載した。 	

<p>【223】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界に対して広く情報を発信するため、英文版のホームページの充実を図る。 	<p>【223】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界に対して広く情報を発信するため、英語によるホームページ、研究業績データベース及び英語をはじめとする外国語によるニュースレターの拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学英語版ホームページについて、最新情報告知欄をトップページに移行するなど、構成の改定を行った。また、国際関連プロジェクトや留学生・外国人研究者の生活サポートページへのリンクを増やすとともに、情報の更新頻度を高め、提供情報の拡充に努めた。 また、今後広報室などとの連携を深めることにより、さらに、最新の情報を提供できるように準備を進めている。 多言語によるニュースレター発行を検討した結果、当面、英文・中文の充実に注力することとし、さらにホームページの更新頻度を高めるとともに、ニュースレターとのリンクを強化することにより、機動的な情報発信・受信と効率的運営を目指すこととした。 平成18年11月、学内教職員、中国同窓会等に北京オフィスを有効に活用してもらうため、北京オフィス・メール通信を創刊、隔月発行した。 国際交流室において、「留学生・研究者の増加」、「既存の連携の強化」、「北大ファンを育てる」、「本学の存在感を高める」という4つの広報課題を意識した広報の方向性について取りまとめた。 「持続可能な開発」国際戦略(HUISD)の英文ホームページを新たに立ち上げるとともに、本学教員が関わって学内で開催される「持続可能な開発」関係国際シンポジウム、ワークショップの開催について英文ホームページで紹介することとした。
<p>【224】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北大交流プラザ「エルムの森」を広報拠点の一つとして位置づけ、中学校・高等学校の生徒や一般市民等来学者に対するサービスを充実させる。 	<p>【224】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北大交流プラザ「エルムの森」では以下の事柄を行う。 ア)北海道大学広報戦略の一環として「北大ショップ」を設置し、北大グッズの販売を開始する。 イ)平成16年9月に壊滅的な被害を受けた北大の名所「ポプラ並木」の倒木ポプラで制作した「チェンバロ」の演奏会をクラーク会館で実施することに合わせ、エルムの森では、昨年に引き続き倒木ポプラで制作した家具やレリーフ等の作品展を実施すると共に「北海道大学ポプラ並木再生の記録」を収めたDVDを常時放映する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年5月に交流プラザ「エルムの森」に北大オリジナルグッズを中心に販売する「エルムの森ショップ」を設置した。 当初、種類が少なかった北大グッズは、順次商品開発し平成19年3月現在では50種類以上の商品を取りそろえている。このショップの設置により交流プラザの利用者が48,405人と平成17年度の2倍以上となった。 平成18年9月にクラーク会館において倒木ポプラで制作したチェンバロによる演奏会を行った。あわせて演奏会当日にクラーク会館のロビーで同じく倒木ポプラで制作した家具などの作品を展示した。展示作品の一部は、現在、総合博物館に常設展示している。 「エルムの森」においては、「北海道大学ポプラ並木再生の記録」ビデオを常時放映するなどして、広報活動の拠点としての充実を図った。
<p>【225】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北海道大学東京オフィス」を拠点として、首都圏近郊における情報の発信と収集を充実させるほか、企業等との連携の促進及び同窓会組織との交流を図る。 	<p>【225】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北海道大学東京オフィス」では平成16年度配置した研究戦略担当者とも連携を取りながら首都圏の情報収集と情報発信を強化させる。また、「北海道大学キャリアセンター」の首都圏における活動拠点としての具体的な利用方策を検討する。平成19年移転の東京オフィスの一層の利用促進を図るため広報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「北海道大学東京オフィス」を引き続き首都圏近郊における情報の発信と収集の拠点として運営した。特にフロンティアセミナー開催など東京における北海道大学の研究の情報発信について支援した。また、在京企業の求人票を東京オフィスで受け付け、東京近郊における学生の就職活動の拠点としてキャリアセンターの事業の支援も行った。 北海道大学の東京における教育研究活動の拠点として、今後の利便性を高めるために平成19年3月に、より面積が広くて立地条件の良いJR東京駅直結のサピアタワーに移転した。新オフィスは、会議室を二つ備えテレビ会議システムも導入したことにより東京における「個別企業説明会」及び「官庁業務説明会」の開催、「就職相談室の開設」などを実施することとしている。

ウェイト小計

ウェイト総計

〔ウェイト付けの理由〕

(3) 自己点検・評価及び情報提供に関する特記事項等

特記事項

1. 大学情報データベースシステムの稼働開始

自己点検評価，法人評価，認証評価等に必要不可欠な本学のデータを一元的に集約・蓄積し，評価に迅速かつ効率的に利用するためのシステムを構築し，平成19年2月に稼働を開始した。

2. 朝日新聞社との協力協定によるフォーラムの開催

平成17年度に朝日新聞社と「環境」をテーマとした連携・協力関係を締結し，この基本合意に基づき「北海道大学サステナビリティ・サイエンス・フォーラム」を開催した。東京会場では約1,000名の参加があり，札幌会場では300名を上回る参加があった。これらのフォーラムは朝日新聞全国版に記事が掲載されるなど，地球環境問題に対する本学の取組が広く全国に伝えられた。

3. 北大交流プラザ「エルムの森」来訪者倍増

北大交流プラザ「エルムの森」は，明治34年建設の旧昆虫学教室を保存活用し，来訪者に対して，本学の様々な情報（入試情報から広報誌まで）を提供するとともに，北大関連商品の販売（エルムの森ショップ）も行っている。4月から11月は無休で，平成18年度は48,405人（平成17年度は23,734人）が来訪した。

4. 北海道大学「緑のピアガーデン」

緑豊かな本学キャンパスを地域住民に開放して，より身近に感じてもらうため，8月上旬の9日間，サッポロビール，レストランきゃら亭の協力と「さっぽろ夏祭り実行委員会」の後援を得て，構内でピアガーデンを開催した。初めてキャンパスを訪問する市民がほとんどで，延べ4,500名の来場者があった。

共通事項にかかる取組状況

1. 情報公開の促進が図られているか

大学情報データベースを構築し，これまで研究業績データベースに集積した「研究者情報」，「研究業績情報」の全データ及び「教員の教育・管理運営・社会貢献活動一覧」の過去3年間の調査データを移行し，平成19年2月から本学ホームページ上で一般公開した。

2. 従前の業務実績の評価結果について運営に活用しているか

平成17年度に係る業務の実績に関する評価において課題とされた教員の業績評価については，平成18年度には「教員の業績評価システムについての基本方針」を策定し，平成19年度には，同基本方針に従い，部局ごとに具体的な基準等を策定することとした。